

DISCHARGE LAMP LIGHTING DEVICE

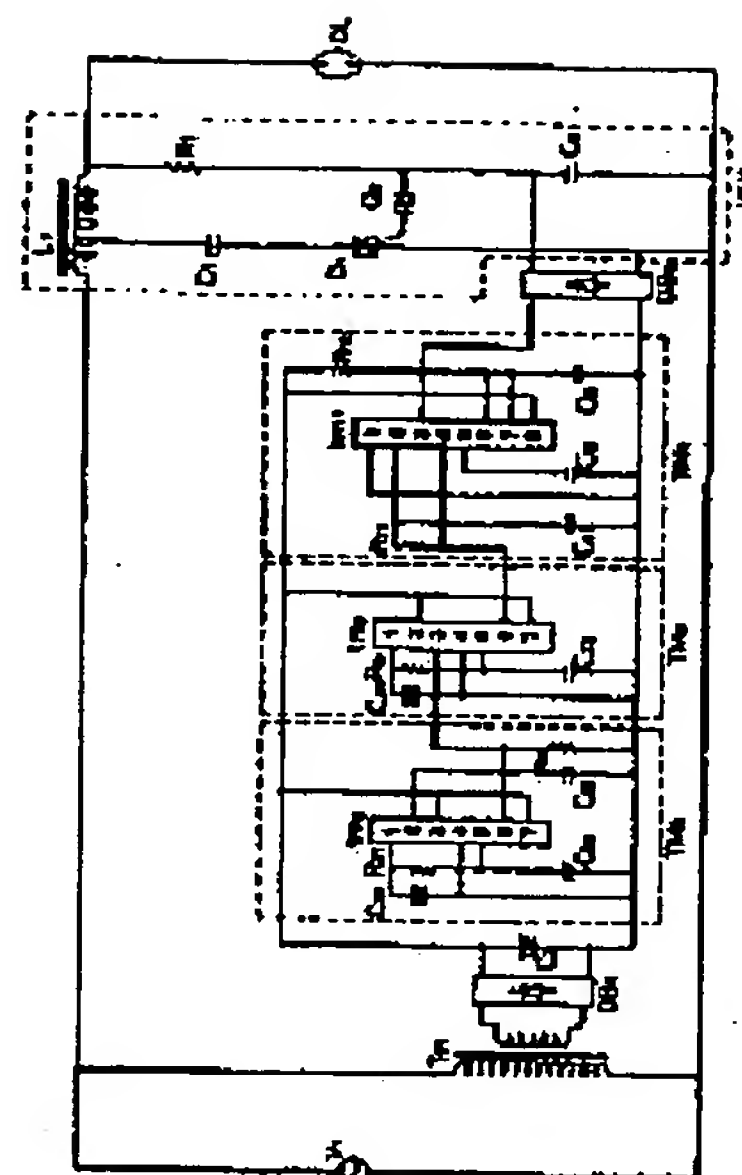
Patent number: JP63307695 A (72562816B)
Publication date: 1988-12-15
Inventor: NISHIMURA KOJI
Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD
Classification:
- international: H05B41/18; H05B41/18; (IPC1-7): H05B41/18
- european:
Application number: JP19870141885 19870605
Priority number(s): JP19870141885 19870605

Report a data error here

Abstract of JP63307695 A

PURPOSE: To reduce the generation of electric noise and deterioration of wiring after the quenching by repeating the igniting operation with the time sufficient for the initial start of a high-pressure discharge lamp in the time sufficient for the restart of the high-pressure discharge lamp.

CONSTITUTION: The first timer TM1 measuring the time sufficient for the initial start of a high-pressure discharge lamp DL and enabling an igniter IGN only during the measured time, the second timer TM2 repeatedly operating the first timer TM1, and the third timer TM3 prohibiting the operation of the igniter IGN after the measured time elapses are provided. When a luminescent lamp is restarted from the hot state after quenching occurs while the high-pressure discharge lamp DL is continuously lit, starting high-voltage pulses occur intermittently. An adverse effect to the acoustic equipment and computer equipment due to the occurrence of electric noise can be thereby reduced.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報 (B 2)

(11)特許番号

第 2 5 6 2 8 1 6 号

(45)発行日 平成8年(1996)12月11日

(24)登録日 平成8年(1996)9月19日

(51)Int. Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 5 B 41/18

H 0 5 B 41/18

X

3 4 0

3 4 0

発明の数 1

(全 7 頁)

(21)出願番号 特願昭62-141885

(22)出願日 昭和62年(1987)6月5日

(65)公開番号 特開昭63-307695

(43)公開日 昭和63年(1988)12月15日

(73)特許権者 999999999

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)発明者 西村 広司

門真市大字門真1048番地 松下電工株式会
社内

(74)代理人 弁理士 倉田 政彦

審査官 関 信之

(56)参考文献 特開 昭59-221994 (J P, A)

特開 昭58-194294 (J P, A)

(54)【発明の名称】放電灯点灯装置

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】始動に高圧パルスを要する高圧放電灯を負荷とし、上記高圧パルス発生用のイグナイタを備える放電灯点灯装置において、少なくとも上記高圧放電灯の初始動に十分な時間を計時し、該計時時間中にのみ上記イグナイタを動作可能とする第1のタイマーと、第1のタイマーを繰り返し動作させる第2のタイマーと、少なくとも上記高圧放電灯の再始動に十分な時間を計時し、該計時時間の経過後は上記イグナイタの動作を禁止する第3のタイマーとを備えて成ることを特徴とする放電灯点灯装置。

【発明の詳細な説明】

(技術分野)

本発明は、始動に高圧パルスを要する高圧放電灯を負荷とする放電灯点灯装置に関するものである。

2

(背景技術)

第5図は従来の高圧放電灯点灯装置の原理説明用の回路図である。交流電源V₁には、限流要素たるチョークコイルL₁を介して高圧放電灯DLが接続されている。チョークコイルL₁は、巻線の途中にタップを備えており、高圧放電灯DLの始動用の高圧パルスを発生するためのパルストランスを兼用している。巻線N₁及びN₂は夫々上記パルストランスの1次巻線及び2次巻線に相当する。1次巻線N₁は、コンデンサC₁及びトライアックQ₁を介して交流電源V₁に接続されている。高圧放電灯DLの両端には、抵抗R₁及びコンデンサC₂の直列回路が接続されている。Q₂は電圧応答スイッチング素子であり、コンデンサC₂の充電電圧が所定値以上となったときに導通して、トライアックQ₁のゲートをトリガするものである。

第5図に示す回路の動作を第6図の波形図を参照しな

がら、簡単に説明する。第6図(イ)は高圧放電灯DLの両端電圧、同図(ロ)はコンデンサ C_2 の充電電圧を夫々示しており、実線は高圧放電灯DLの始動前の状態、破線は高圧放電灯DLの定常点灯時の状態を示している。

高圧放電灯DLの始動前においては、高圧放電灯DLの両端には交流電源 V_1 の電源電圧(便宜上 V_1 とする)と略等しい電圧が印加されており、コンデンサ C_2 は電源電圧 V_1 の各半サイクルの初期より抵抗 R_1 を介して充電され、コンデンサ C_2 の充電電圧が電圧応答スイッチング素子 Q_2 の応答電圧に達すると、電圧応答スイッチング素子 Q_2 が導通し、コンデンサ C_2 の充電電荷がトライアック Q_1 のゲートに放電されて、トライアック Q_1 がトリガされる。これによって、トライアック Q_1 が導通し、交流電源 V_1 、チョークコイル L_1 の1次巻線 N_1 、コンデンサ C_1 の閉回路が形成され、1次巻線 N_1 には急峻な電流が流れて、パルス状電圧が発生する。このパルス状電圧は、2次巻線 N_2 にも誘起され、電源電圧 V_1 と重畳されて、始動用高圧パルスとして高圧放電灯DLの両端に印加される。これ以後、電源電圧 V_1 の当該半サイクルの終期まで、電圧応答スイッチング素子 Q_2 は導通状態を維持する。そして、上記半サイクルの終期で、電源電圧 V_1 の極性が反転することにより、電圧応答スイッチング素子 Q_2 は非導通となる。電源電圧 V_1 の次の半サイクルにおいても、上記の動作が繰り返され、高圧放電灯DLには、電源電圧 V_1 の各半サイクルに1回づつ始動用の高圧パルスが電源電圧 V_1 と重畳された形で印加されることになる(第6図(イ)の実線参照)。

高圧放電灯DLが上記の始動用高圧パルスによって始動すると、高圧放電灯DLの両端電圧は第6図(イ)の破線に示すようになる。一般に、高圧放電灯DLの点灯状態における両端電圧は、電源電圧 V_1 の約半分程度になるので、コンデンサ C_2 の充電電圧は、電圧応答スイッチング素子 Q_2 の応答電圧には達せず、第6図(ロ)の破線に示すようになり、したがって、高圧放電灯DLの点灯状態においては、トライアック Q_1 がトリガされず、前述のような始動用の高圧パルスは発生しない。

第5図の回路は上記のごとき動作するものであって、高圧放電灯DLを始動させるための高圧パルス発生回路

(いわゆるイグナイタIGN)は、高圧放電灯DLが点灯状態になったときのみ動作を停止する。したがって、高圧放電灯DLが放電灯点灯装置から切り離されている状態

(いわゆる無負荷状態)にあっても、また、高圧放電灯DLの寿命等で高圧放電灯DLが接続されているにも拘わらず、高圧放電灯DLが定常点灯に移行できない状態にあっても、イグナイタIGNは動作を継続し、交流電源 V_1 が投入されている間中、高圧放電灯DLの両端には、高圧パルスの印加が継続される。

このような長時間に亘るイグナイタIGNの動作は、電気雑音の継続的発生をもたらし、音響機器やコンピュータ機器への悪影響の可能性が増大するという問題があ

る。また、第5図の回路において、イグナイタIGNと高圧放電灯DLとの間に送り配線(いわゆる管灯回路)が介在するような場合には、イグナイタIGNの発生する継続的な高圧パルスの印加により送り配線が劣化したり、最悪の場合には焼損する可能性もあった。

そこで、イグナイタIGNの動作を高圧放電灯DLの状態に応答させるのではなく、タイマーを使用して或る一定の時間で強制的にイグナイタIGNの動作を停止させることが考えられる。ところで、高圧放電灯の場合、一旦定常点灯状態に入った後、何らかの原因(代表的には瞬時停電)で立ち消えすると、その後、再始動するまでには、例えば、5~20分程度の時間を要するのが一般的である。これは、高圧放電灯の定常点灯時にあっては、発光管が極めて高温になっており、この発光管温度が十分に低い温度に下がるまでは、前述の始動用高圧パルスでは高圧放電灯を始動させることができないからである。したがって、前述のイグナイタIGNを停止させるまでの或る一定の時間としては、代表的には20分程度とするのが妥当である。しかしながら、20分もの時間にわたって、高圧パルスの印加が継続されるのでは、前述のような電気雑音の継続的発生や送り配線の劣化・焼損といった問題を十分に解決することはできない。

そこで、高圧放電灯DLの初始動(上記立ち消え直後の再始動と区別する意味で、最初の始動を“初始動”と称する)に十分な時間のみイグナイタIGNを動作させるタイマーを設け、当該時間づつのイグナイタ動作を周期的に繰り返すことが考えられる。高圧放電灯DLの初始動に十分なイグナイタIGNの動作時間とは、代表的には7~10秒であり、この短時間のイグナイタ動作を、例えば、2分毎に繰り返すことにより、前述の再始動にも充分に対応できると考えられる。しかしながら、このような方式でもいわゆる無負荷の場合においては、7~10秒の断続的な電気雑音の発生が2分毎にいつまでも繰り返されることになり、また、前述の送り配線の劣化についても、短期的な実効ストレスについては軽減されるものの、長時間にわたって高圧パルス印加によるストレスを積算して行けば、必ずしも有効とはいえない面がある。

(発明の目的)

本発明は上述のような点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、高圧放電灯始動用の高圧パルスの継続的印加による不都合を解消した放電灯点灯装置を提供するにある。

(発明の開示)

本発明に係る放電灯点灯装置にあつては、上記の目的を達成するために、第1図乃至第4図に示すように、始動に高圧パルスを要する高圧放電灯DLを負荷とし、上記高圧パルス発生用のイグナイタIGNを備える放電灯点灯装置において、少なくとも上記高圧放電灯DLの初始動に十分な時間を計時し、該計時時間中にのみ上記イグナイタIGNを動作可能とする第1のタイマー TM_1 と、第1のタ

イマー TM_1 を繰り返し動作させる第2のタイマー TM_2 と、少なくとも上記高圧放電灯 DL の再始動に十分な時間を計時し、該計時時間の経過後は上記イグナイタ IGN の動作を禁止する第3のタイマー TM_3 とを備えて成るものである。

すなわち、本発明にあつては、前述の高圧パルス印加の強制的解除の思想のそれぞれの特徴を最大限に生かしながら、パルス発生期間を考えられる最小値にすることによって、前述の難点の解消を図ろうとするものであり、高圧放電灯 DL の初始動に必要な時間（代表的には10秒）を計時する第1のタイマー TM_1 を設け、この第1のタイマー TM_1 が一定周期（代表的には2分）で間欠的に動作するように、第2のタイマー TM_2 を設け、これら第1及び第2のタイマー TM_1 、 TM_2 が少なくとも高圧放電灯 DL の再始動に十分な時間（代表的には20分）以上動作するように、第3のタイマー TM_3 を設けたものであり、第1のタイマー TM_1 の計時時間中にのみイグナイタ IGN を動作させ、第3のタイマー TM_3 の計時時間の経過後はイグナイタ IGN を動作させないようにしたものである。

したがって、本発明にあつては、高圧放電灯 DL の点灯状態継続中に何らかの原因（例えば、瞬時停電）により立ち消えを起こした後、高圧放電灯 DL の発光管が熱い状態より再始動する場合においても、高圧放電灯 DL の始動用の高圧パルス発生が間欠的に行われるので、再始動するまで継続的に高圧パルスを発生させる従来の方式に比べて、電気雑音の発生による音響機器やコンピュータ機器への悪影響の確率が低減でき、また、イグナイタ IGN と高圧放電灯 DL との間の送り配線（いわゆる管灯回路）の劣化や焼損の可能性を低減できる。のみならず、高圧放電灯 DL が初始動、再始動共に不可の状態（例えば、球切れ）に陥ったとしても、タイマー TM_3 の存在により上記の間欠的な高圧パルスの発生が、再始動に要する時間よりも長く継続されることはないものである。

以下、本発明の実施例について説明する。

実施例 1

第1図は本発明の一実施例の回路図である。第1図の回路において、第5図の従来例と同一の機能を有する部分には、同一の符号を付して重複する説明は省略する。交流電源 V_1 の電源電圧は、電源トランス Tf_1 にて降圧され、全波整流回路 DB_1 及びコンデンサ C_3 にて整流平滑されて、第1乃至第3のタイマー $TM_1 \sim TM_3$ の制御用電源電圧が得られる。

第1のタイマー TM_1 は、汎用のタイマー $ICtm_1$ （例えば、NECの $\mu PC1555$ ）と、このタイマー $ICtm_1$ の制御素子たる抵抗 R_{11} 、 R_{12} 及びコンデンサ C_{11} 、 C_{12} 、 C_{13} より構成されている。

第2のタイマー TM_2 は、汎用のタイマー $ICtm_2$ （例えば、ナショナルAN6780）と、このタイマー $ICtm_2$ の制御素子たる抵抗 R_{21} 及びコンデンサ C_{21} 、 C_{22} より構成されている。

第3のタイマー TM_3 は、汎用のタイマー $ICtm_3$ （例えば、ナショナルAN6780）と、このタイマー $ICtm_3$ の制御素子たる抵抗 R_{31} 、 R_{32} 及びコンデンサ C_{31} 、 C_{32} 、 C_{33} より構成されている。

トライアック Q_1 のトリガ用のコンデンサ C_2 には、全波整流回路 DB_2 の交流側端子を接続し、全波整流回路 DB_2 の直流側端子には、前述の第1のタイマー TM_1 の出力端が接続されている。タイマー TM_1 の動作開始のためのトリガは、第2のタイマー TM_2 の出力により行われ、タイマー TM_2 の動作開始のためのトリガは、第3のタイマー TM_3 の出力により行われる。

第2図は第1図回路におけるイグナイタ IGN の動作状況を説明するための動作波形図である。

第2図（イ）は、タイマー $ICtm_3$ の出力端子（6番ピン）から得られるタイマー TM_3 の出力信号の波形図であつて、電源電圧 V_1 の投入後、抵抗 R_{31} 及びコンデンサ C_{31} で決まる時刻 t_3 までタイマー TM_3 の出力信号が発生していること示す。タイマー $ICtm_3$ は、ストップ端子（2番ピン）が“High”レベルで、リセット端子（3番ピン）が“High”レベルという条件下で発振し、リセット端子（3番ピン）は出力端子（6番ピン）に接続されているので、電源電圧 V_1 の投入後、時刻 t_3 にて出力端子（6番ピン）が“Low”レベルになった状態で発振を停止し、その後、その状態を維持する。

第2図（ロ）は、タイマー $ICtm_2$ の出力端子（6番ピン）から得られるタイマー TM_2 の出力信号の波形図であつて、電源電圧 V_1 の投入後、抵抗 R_{21} とコンデンサ C_{22} の値で決まる発振周期 T_2 で出力信号が発生していることを示す。ストップ端子（2番ピン）は常に“High”レベルであり、リセット端子（3番ピン）は前述の時刻 t_3 のタイミングまで“High”レベルを維持する。

第2図（ハ）は、タイマー $ICtm_1$ の出力端子（3番ピン）から得られるタイマー TM_1 の出力信号の波形図であつて、電源電圧 V_1 の投入後、タイマー $ICtm_1$ のトリガ端子（2番ピン）が“Low”レベルに落ちる度に、抵抗 R_{12} とコンデンサ C_{13} の値で決まる時間 T_1 で出力信号が“High”レベルとなっていることを示す。なお、電源電圧 V_1 の投入直後のタイマー $ICtm_2$ の出力は号“High”レベルであるが、抵抗 R_{11} とコンデンサ C_{11} の存在により、コンデンサ C_{11} の端子電圧は極めて短時間（コンデンサ C_{11} がタイマー $ICtm_1$ の電源電圧の1/3以上に充電されるまでの間）は“Low”レベルとなっているので、電源電圧 V_1 の投入直後、タイマー $ICtm_1$ はトリガされ、時間 T_1 の間、タイマー $ICtm_1$ の出力端子（3番ピン）は“High”レベルとなる。

第1図回路のタイマー $TM_1 \sim TM_3$ は上述のように動作するが、抵抗 R_1 とコンデンサ C_2 及び電圧応答スイッチング素子 Q_2 で構成されるトライアック Q_1 のトリガ回路に着目すると、タイマー TM_1 の出力が“Low”レベルの期間においては、タイマー $ICtm_1$ の出力端子（3番ピン）とアー

ス端子（1番ピン）との間のバイパス回路の存在により、コンデンサ C_2 の両端がショートされていることになり、抵抗 R_1 を介してコンデンサ C_2 への充電は行われず、コンデンサ C_2 の充電電圧は上昇しない。したがって、トライアック Q_1 は非導通状態を維持し、高圧放電灯DLの状態が如何なる場合においても、始動用の高圧パルスの発生は起こらない。また、タイマー TM_1 の出力が“High”レベルの期間においては、上記トリガ回路は前述の従来例と同様の動作を行い、高圧放電灯DLが始動した場合においては、その時点で高圧放電灯DLの始動用高圧パルスの発生は停止され、もし、高圧放電灯DLが点灯装置から実質的に取り外されているような場合には、いわゆる無負荷状態にあっても、高圧放電灯DLの始動用高圧パルスは、第2図（ハ）の期間 T_1 にのみ発生するものであり、しかも、少なくとも第2図（イ）の時刻 t_3 以降においては、高圧放電灯DLがどのような状態であっても、始動用高圧パルスの発生は行われない。

実施例2

第3図は本発明の他の実施例の回路図である。本実施例において、第1図の回路と同一の機能を有する部分には同一の符号を付して重複する説明は省略する。本実施例と第1図の回路との相違点は、第1図の回路では、抵抗 R_1 とコンデンサ C_2 との直列回路を高圧放電灯DLの両端に接続していたのに対し、第3図の回路では、抵抗 R_1 とコンデンサ C_2 との直列回路を電源電圧 V_1 の両端に接続している点である。このような回路構成を採ると、高圧放電灯DLが初始動、再始動共に可能な状況下にあつては、高圧放電灯DLの始動後少なくともタイマー TM_1 で決まる期間は、高圧放電灯DLが始動したかどうかに関わらず、高圧放電灯DLの始動用の高圧パルスが発生するが、高圧放電灯DLが初始動、再始動共に不可の状況下にあつては、タイマー TM_3 、 TM_2 、 TM_1 の存在により、前述と同様の動作を行う。

なお、第3図の回路構成では、抵抗 R_1 に高圧放電灯DLの始動用の高圧パルスが印加されないため、第1図の回

路構成を用いる場合に比べて、抵抗 R_1 の耐圧についての考慮が不要になるという点で優れているものである。

実施例3

第4図は本発明のさらに他の実施例の回路図である。本実施例において、第1図の回路と同一の機能を有する部分には同一の符号を付して重複する説明は省略する。第1図の回路において、電源電圧 V_1 の瞬時停電により高圧放電灯DLに立ち消えが生じた場合には、タイマー TM_3 に自動的にリセットがかかるが、例えば、電源電圧 V_1 の急減などにより高圧放電灯DLに立ち消えが生じた場合には、タイマー TM_3 にリセットがかからず、交流電源 V_1 を一旦オフにするまでは高圧放電灯DLの不点灯状態が継続する。第4図の回路では、この点を考慮して、第1図の回路にタイマー TM_3 のリセット要素Aを追加したものである。リセット要素Aは、交流電源 V_1 の投入状態で高圧放電灯DLが点灯状態から不点灯状態に移行したときのみ、タイマー TM_3 へリセット信号を送るようにしたものである。したがって、第4図の回路では、交流電源 V_1 の投入された状態で高圧放電灯DLが点灯状態から不点灯状態へ移行した場合に、不点灯状態の継続が生じることを防止できるものである。

（発明の効果）

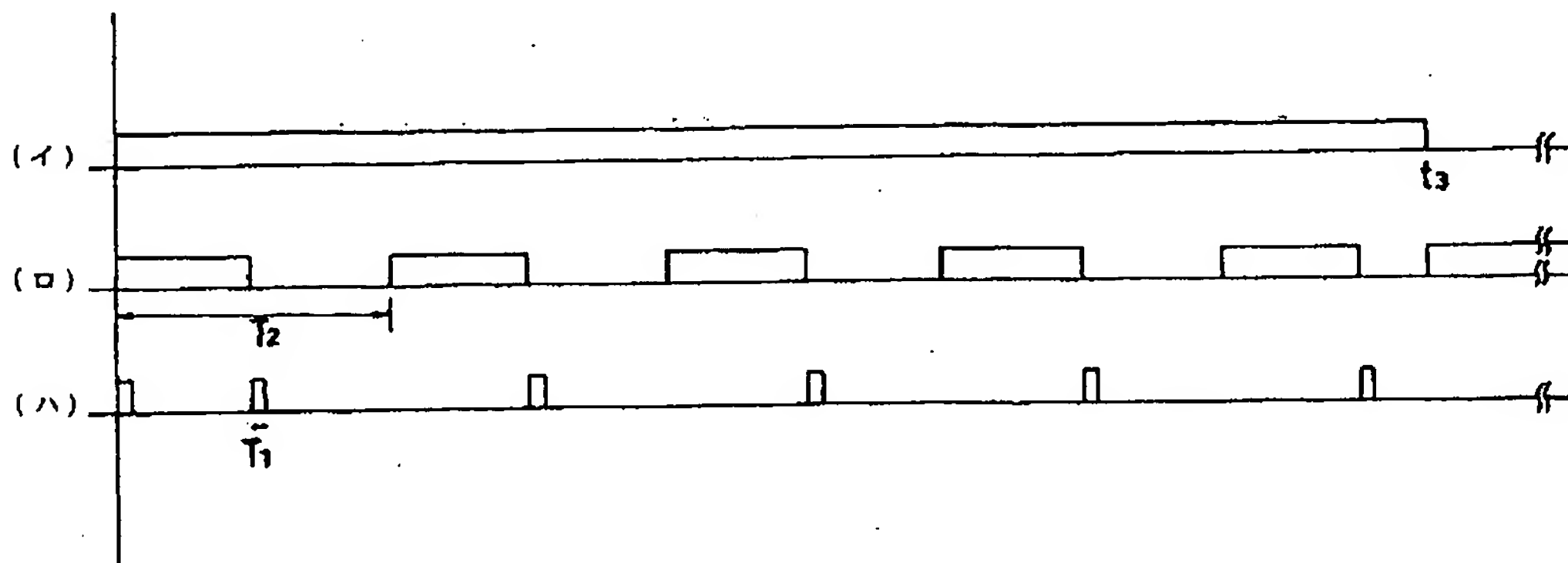
本発明は上述のように、高圧放電灯の初始動に十分な時間のイグナイタ動作を高圧放電灯の再始動に十分な時間以内で繰り返し行い得るようにしたので、立ち消え後の再始動が確実に行われ、しかも、電気雑音の発生や配線の劣化の可能性を可及的に低減することができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

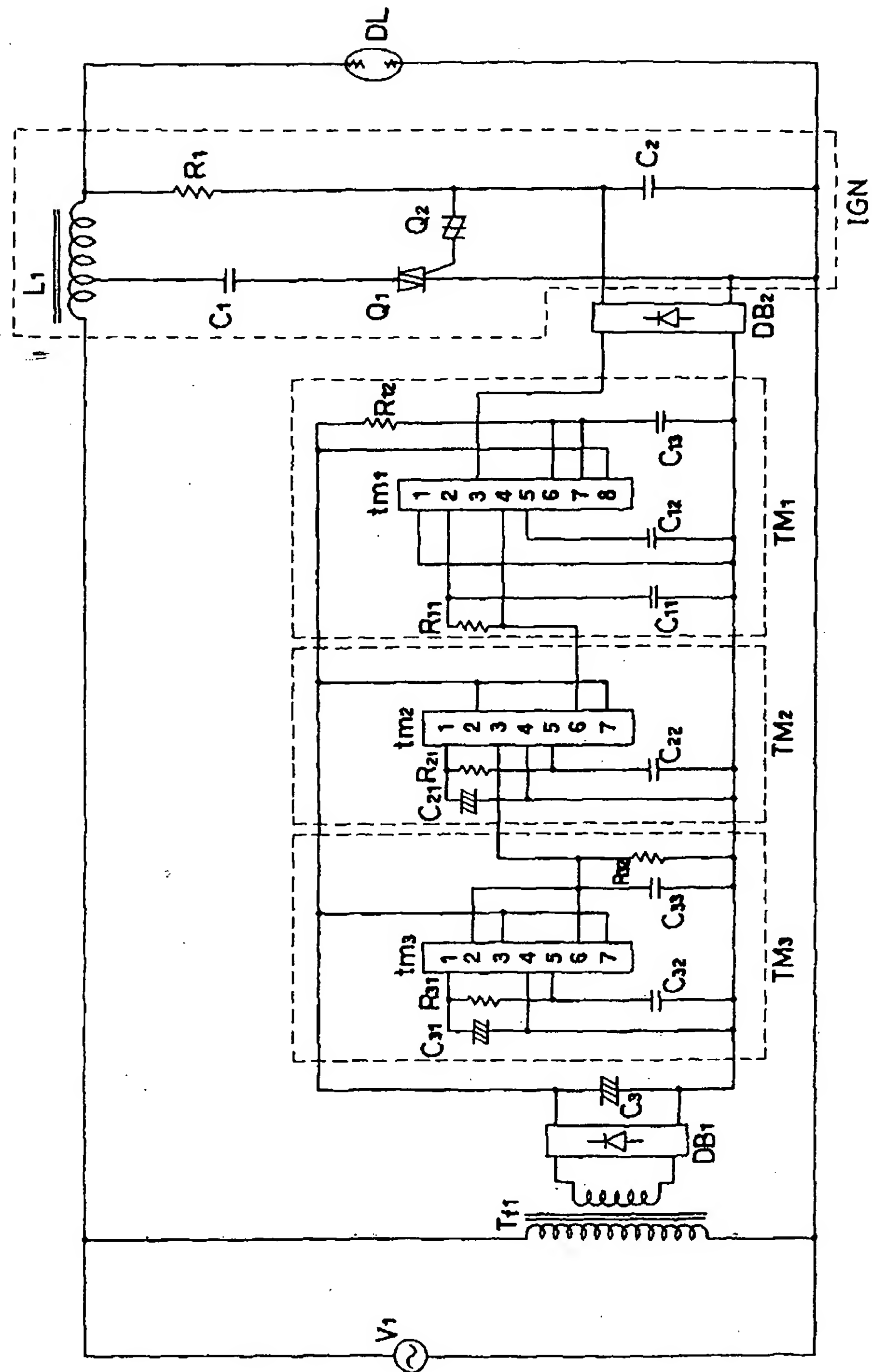
第1図は本発明の一実施例の回路図、第2図は同上の動作波形図、第3図は本発明の他の実施例の回路図、第4図は本発明のさらに他の実施例の回路図、第5図は従来例の回路図、第6図は同上の動作波形図である。

DLは高圧放電灯、IGNはイグナイタ、 $TM_1 \sim TM_3$ はタイマーである。

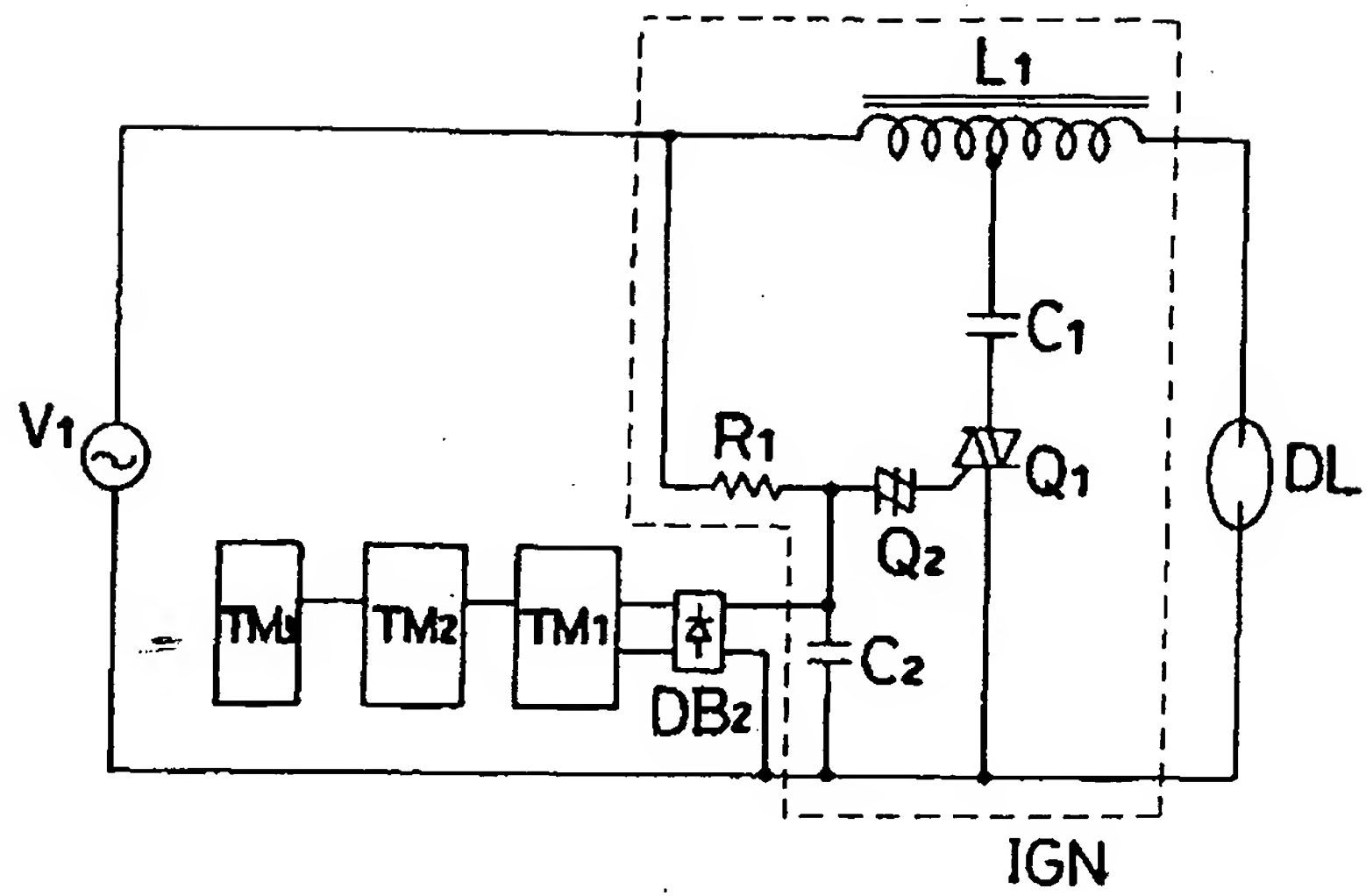
【第2図】



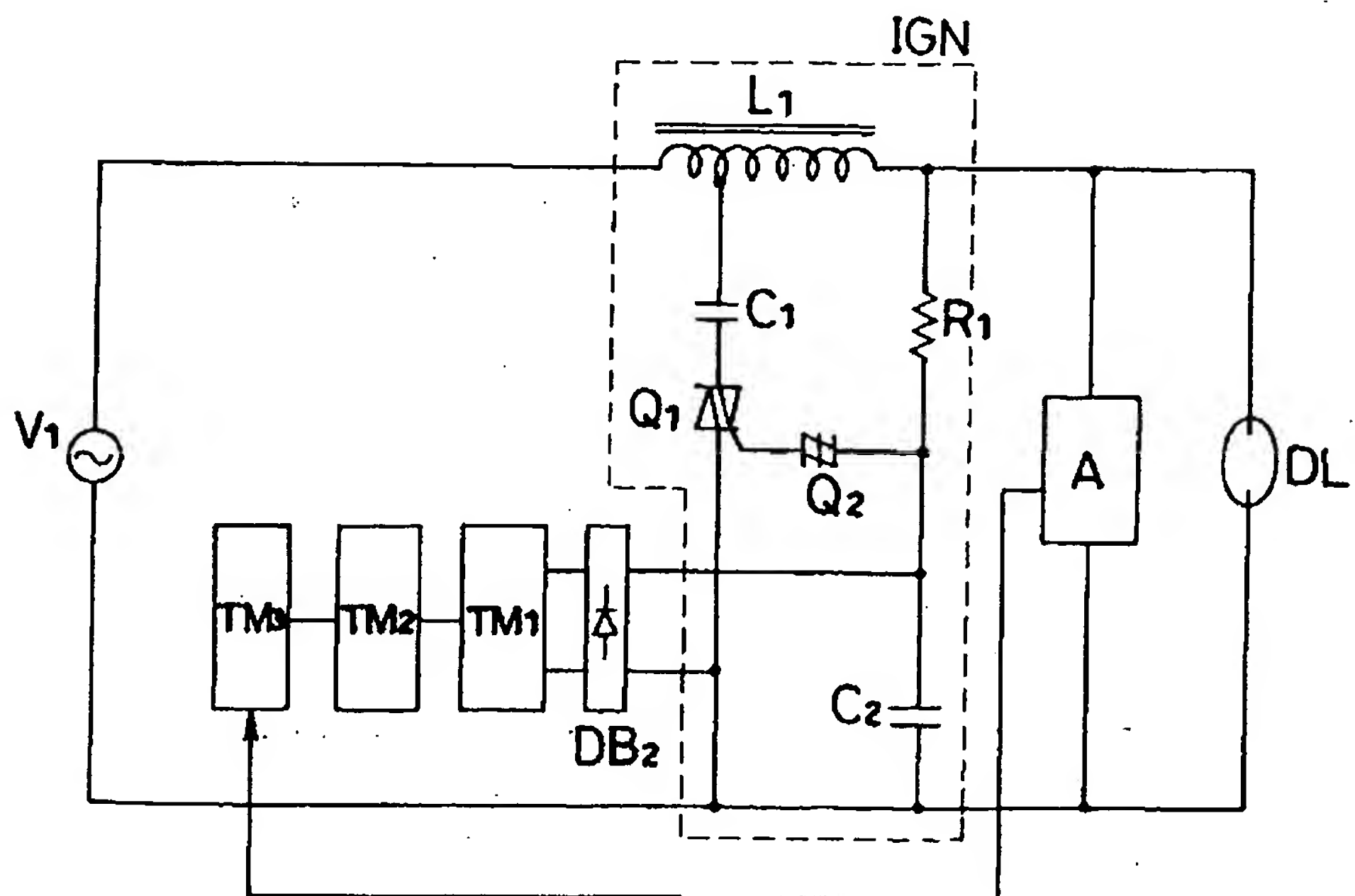
【第 1 図】



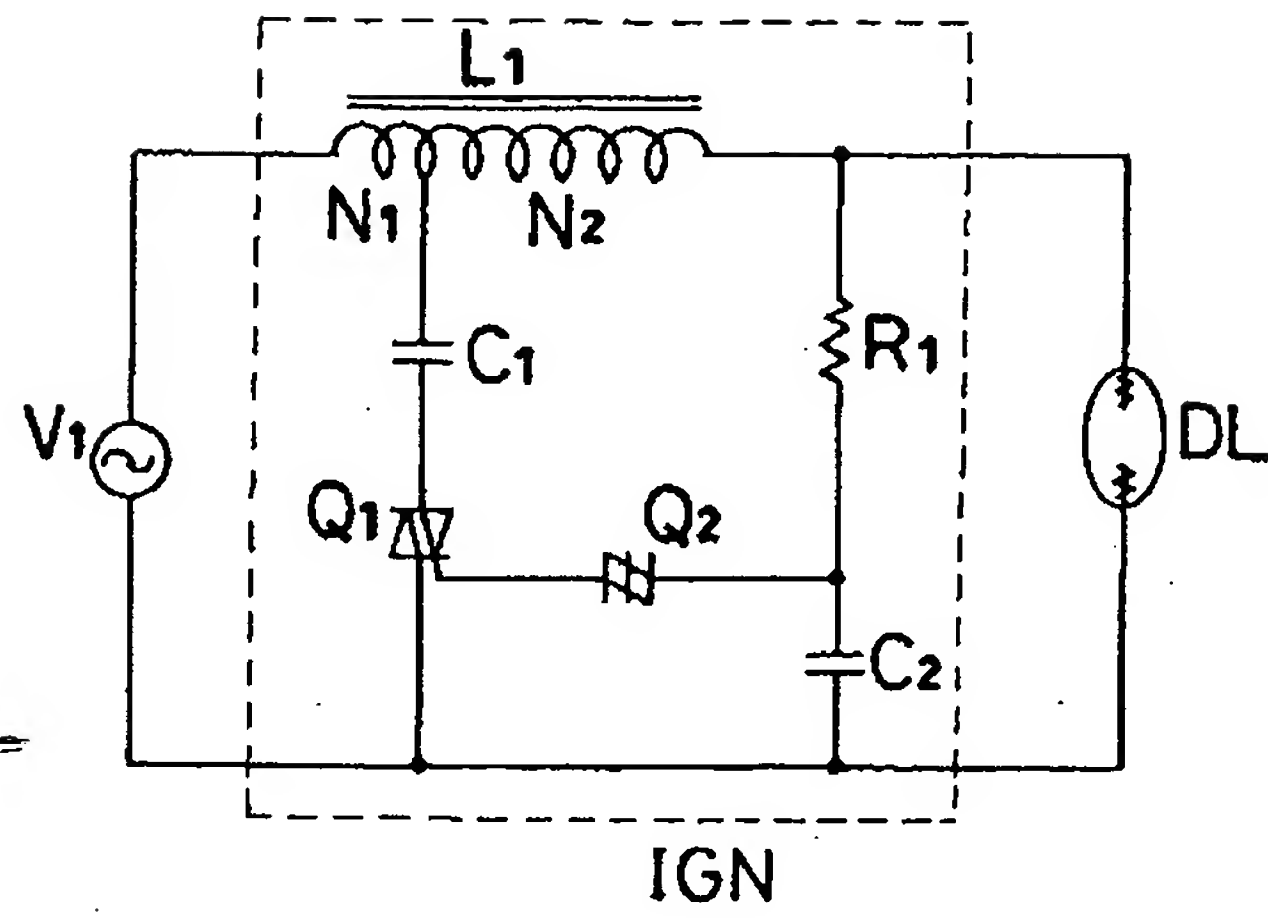
【第3図】



【第4図】



【第5図】



【第6図】

